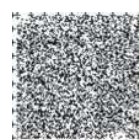


あいち 福祉保健医療 ビジョン 2026

概 要 版

2021年3月



はじめに

本県では、2011年に「あいち健康福祉ビジョン」を策定（2016年に改訂）し、様々な取組を推進してまいりましたが、今後、本格的な人口減少の進行、家庭や地域社会の変容など、福祉・保健・医療を取り巻く課題やニーズは、より一層複雑化・多様化していくものと見込まれています。

「あいち福祉保健医療ビジョン2026」は、包括的な視点に立ち、様々な取組を進めていくうえで共通して必要となる考え方や、各分野の横断的・重点的な施策の方向性をお示ししています。

本ビジョンに基づき、誰もが地域で安心して健やかに生活することができるよう、共に支え合う地域づくりを進めるとともに、子ども・子育て、健康寿命の延伸、医療・介護提供体制の確保、障害者支援の各分野の施策の充実を図り、福祉・保健・医療が一体となった取組を推進してまいります。

世代や分野を超えて多様な主体が参画し地域を共に創っていく「地域共生社会」、そして、誰もがその人らしく活躍できる「すべての人が輝くあいち」を目指して、県民の皆様とともに取り組んでまいりたいと存じますので、一層のご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



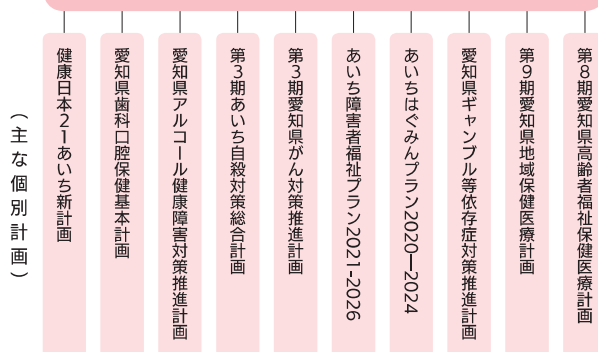
愛知県知事 大村秀章

2021年3月

ビジョンの性格と位置付け

- 本県の福祉・保健・医療施策全体の方向性を示す基本指針とする
- 各分野の個別計画の上位計画として、分野横断的・重点的な取組の方向性を示す
- 社会福祉法第108条に基づく「都道府県地域福祉支援計画」として位置づける

あいち福祉保健医療ビジョン2026 (都道府県地域福祉支援計画として位置付け)



関連する SDGs の目標



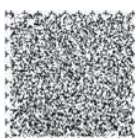
○ 2040年頃の社会経済を展望し、2030年度までに重点的に取り組むべき方向性を示す「あいちビジョン2030」を反映

○ SDGs未来都市として、SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) の理念を反映

計画期間

2021年度から2026年度まで（6年間）

※「団塊ジュニア世代」が全て高齢者（65歳以上）となる2040年頃を展望



福祉・保健・医療を取り巻く社会情勢の現状・展望

1. 人口減少の進行

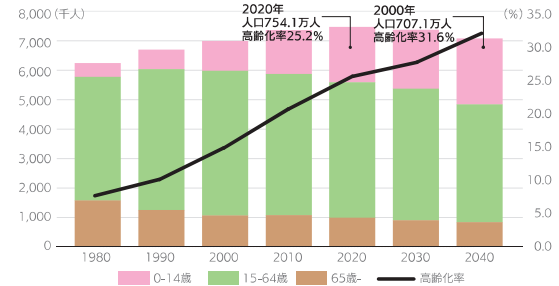
＜人口減少・高齢化の進行（2020年 ⇒ 2040年）＞

- ・ 本県の人口推計 754.1万人 ⇒ 707.1万人
- ・ 「団塊ジュニア世代」が高齢化し、高齢化率31.6%
- ・ 「団塊の世代」が90代となり「多死社会」へ
- ・ 平均寿命の延伸により「人生100年時代」へ

＜少子化の進行＞

- ・ 2019年の出生数は57,145人
- ・ 2019年の合計特殊出生率は1.45

◆ 年齢3区分別の人口推計（愛知県）

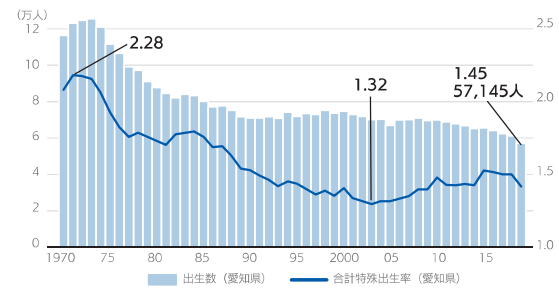


(資料)～2010「国勢調査」(総務省)、
2020「あいちの人口(2020.10.1現在)」(愛知県)、
2030～「日本の地域別将来推計人口(平成30年推計)」
(国立社会保障・人口問題研究所)

2. 世帯の多様化、小規模化

- ・ 単身世帯、夫婦のみ世帯など小規模な世帯が増加
(平均世帯人員2.39人(2020年)⇒ 2.24人(2040年))
- ・ なかでも一人暮らしの高齢者が大幅に増加

◆ 出生数・合計特殊出生率の推移（愛知県）



出典：「都道府県別人口の出生力に関する主要指標 昭和45年～60年」
(厚生省人口問題研究所)、「人口動態統計」(厚生労働省)

3. 地域のつながりの希薄化

- ・ 地域社会の担い手の減少
- ・ 元気な高齢者に地域の担い手としての期待

4. 福祉・保健・医療を取り巻く ニーズの増大、複雑化・多様化

- ・ 要介護（要支援）認定者・認知症高齢者の増
- ・ 社会保障費の増大
- ・ 医療福祉分野の就業者の増加
- ・ 労働力と働き方の広がり
- ・ 外国人住民の増加・多国籍化
- ・ 個人や世帯の抱える課題の複合化・複雑化

5. 先進的技術の革新

- ・ デジタルトランスフォーメーションの必要性
- ・ Society5.0の実現への期待

6. 災害・感染症リスクの増大

- ・ 南海トラフ地震の発生や、災害の頻発や激甚化への懸念
- ・ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大

基本的な視点

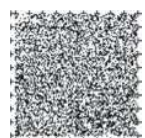
世代や分野を越えて多様な主体が参画し地域を共に創っていく「地域共生社会」、一人ひとりがその人らしく活躍する「すべての人が輝くあいち」を目指し、様々な取組を進めるうえで、共通して必要となる考え方を整理

視点1 共に支え合う地域づくり

視点3 予防・早期対応の重視

視点2 本人・世帯を主体とした包括的支援

視点4 適切な役割分担と連携



主要な施策の方向性

「共に支え合う地域づくり」として、分野横断的な包括的支援や共に支える意識の醸成など、地域共生社会を実現する上で共通して必要な取組について位置づけるとともに、「安心・安全な暮らしを支えるサービスの充実」として、子ども・子育て、健康寿命の延伸、医療・介護提供体制の確保、障害者支援の各分野の施策の一層の充実を図り、福祉・保健・医療が一体となった取組を推進していきます。

共に支え合う 地域づくり

1

分野にとらわれない
包括的支援の推進

2

一人ひとりの尊厳を
尊重した社会づくり

3

地域を支え活躍する
人づくり

4

共に支える意識の醸成と
環境づくり

安心・安全な 暮らしを支える サービスの充実

1. 子ども・子育て支援

- (1)結婚出産を支える基盤づくり
- (2)子ども・子育て家庭への切れ目ない支援
- (3)配慮が必要な子ども・子育て家庭への支援

2. 健康寿命の延伸

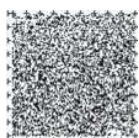
- (1)生活習慣の改善による健康づくり
- (2)疾病予防・重症化予防
- (3)フレイル予防・介護予防・認知症予防

3. 医療・介護提供体制の確保

- (1)質の高い医療を受けられる体制の確保
- (2)高齢化に対応した医療・介護提供体制の確保
- (3)医療・介護を支える人材の確保
- (4)大規模災害や感染症への備え

4. 障害者支援

- (1)障害のある人の生活支援
- (2)障害のある人が活躍できる機会の充実



共に支え合う地域づくり

- 家庭機能の低下や地域のつながりの希薄化により支え合いの機能が脆弱化するなか、個人や世帯が抱える課題やリスクは複合化・多様化し、対象者の属性や分野にとらわれない包括的な支援が求められています。
- 行政、住民、企業など多様な主体が一体となった取組を推進し、誰もが尊厳を持った個人として尊重され、安心して地域で生活できるよう、「地域共生社会」を構築していきます。

(1)分野にとらわれない包括的支援の推進

- ・市町村における重層的支援体制の整備
- ・生活困窮者への包括的な支援
- ・ひきこもり状態にある人への支援
- ・自殺対策の推進
- ・外国人県民への支援
- ・矯正施設退所者等への支援
- ・適切な居住環境の確保
- ・災害時要配慮者への支援の推進

(2)一人ひとりの尊厳を尊重した社会づくり

- ・人権教育・普及の推進
- ・障害のある人への差別解消
- ・新型コロナウイルス感染症への理解促進
- ・権利擁護の推進
- ・適切な事業運営の確保等
- ・子どもや高齢者、障害のある人への虐待の防止
- ・DVの防止・被害者支援

(3)地域を支え活躍する人づくり

- ・住民の地域活動への参加促進
- ・地域における高齢者の活躍促進
- ・社会福祉協議会やNPO等の地域づくりを担う団体への支援

(4)共に支える意識の醸成と環境づくり

- ・障害のある人や認知症の人等への理解の促進
- ・社会全体で子育てや健康づくりを応援する機運の醸成
- ・人にやさしい街づくりの推進

企業等と連携した取組



ヘルプマーク普及 パートナーシップ

ヘルプマーク※の普及啓発にご協力いただける民間事業者（企業・法人・団体）を登録



あいち認知症パートナー 企業・大学

認知症に理解の深いまちづくりに「じぶんごと」として取り組み、その取組内容を宣言していただく企業や大学等を登録



愛知県ファミリー・ フレンドリー企業

社員が仕事と生活の調和を図ることができるよう積極的に取り組んでいる企業を登録

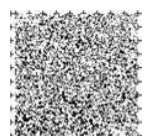


愛知県健康経営 推進企業

健康経営※を推進する企業・団体を登録

※ヘルプマーク：外見から分からなくても援助や配慮を必要としている方が、周囲に配慮を必要としていることを知らせることで、援助を得やすくなるよう、東京都が作成

※健康経営：従業員等の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に実践すること



安心・安全な暮らしを支えるサービスの充実

1 子ども・子育て支援

- 少子高齢化が進行する中、本県が引き続き活力を維持し持続的に発展していくためには、少子化の流れに歯止めをかけることが必要です。
- 親世代の子育てを支援するという視点のみならず、子どもの健やかな育ちを支えるという視点を重視しながら、子どもの育ちの過程と子育て世代のライフステージに応じた総合的な施策を展開していきます。

(1)結婚・出産を支える基盤づくり

若者の就労支援、結婚を希望する人への支援、周産期医療体制の充実、不妊・不育に関する支援

(2)子ども・子育て家庭への切れ目ない支援

地域における子育て支援力の向上、保育の受け皿の拡充と保育人材確保、放課後児童対策の推進

(3)配慮が必要な子ども・子育て家庭への支援

子どもの貧困対策、ひとり親家庭への支援、児童虐待対策の推進、社会的養育の体制整備



はぐみん

(愛知県の子育て・子育て支援マスコットキャラクター)



オレンジリボン

(「子どもの虐待防止」の象徴)

2 健康寿命の延伸

- 生涯にわたり健康でいきいきと過ごしていくためには、平均寿命と健康寿命の差の縮減を図ることが重要です。
- 一人ひとりの主体的な健康づくりに加え、疾病の早期発見・重症化予防や介護予防、社会全体で健康づくりをサポートする仕組みが必要であり、「健康長寿あいち」の実現を目指し、生涯にわたる健康づくりの取組を推進していきます。

(1)生活習慣の改善による健康づくり

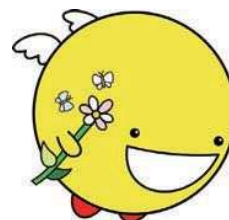
健康的な生活習慣に関する知識の普及、受動喫煙対策の推進、健康づくりに取り組む環境整備

(2)疾病予防・重症化予防

生活習慣病の発症予防に関する知識の普及、健診受診率向上に向けた取組、こころの健康の保持・増進

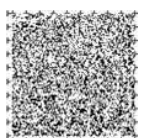
(3)フレイル予防・介護予防・認知症予防

高齢者の生きがいと健康づくりの推進、介護予防・認知症予防の推進、保健事業と介護予防の一体的な実施



エアフィー

(愛知県健康づくり応援キャラクター)



3 医療・介護提供体制の確保

- 高齢化の進行等に伴い、県民の医療・介護ニーズは増大かつ多様化が見込まれており、医療や介護が必要になっても可能な限り住み慣れた地域で安心して暮らせるよう地域包括ケアシステムの推進が必要です。
- 引き続き、医療・介護サービス基盤の量的・質的充実を図るとともに、限られた人的・物的資源を有効活用し、高齢化に対応した医療・介護提供体制を確保していきます。また大規模災害や新型コロナウイルス感染症を始めとした新興・再興感染症の流行など、非常時においても必要な医療・福祉提供体制を確保していきます。

(1) 質の高い医療を受けられる体制の確保

がん医療や循環器病など疾病に応じた医療体制の確保、救急医療体制の確保

(2) 高齢化に対応した医療・介護提供体制の確保

地域包括ケアシステムの構築、病床の機能分化・連携の推進、在宅医療の推進、介護サービス基盤等の整備、認知症施策の推進

(3) 医療・介護を支える人材の確保

医師・看護師等医療従事者の確保・育成、介護人材の確保・育成

(4) 大規模災害や感染症への備え

災害時保健・医療、福祉提供体制の確保、新型コロナウイルス等感染症拡大防止対策の推進、医療・福祉施設等への支援



あいちオレンジタウン構想※ スローガン

4 障害者支援

- 障害のある人が経験する困難や制限は、心身の機能の障害のみに起因するものではなく、社会との関係の中で捉えられる社会的障壁を取り除いていくことが求められています。
- 障害の特性や状態、生活実態等に配慮したきめ細かい支援が必要であり、幅広い分野が連携して、切れ目なく、障害のある人の自立と社会参加を促進する施策を総合的に講じていきます。

(1) 障害のある人の生活支援

住まいの確保や相談支援体制の充実等自立生活の支援、障害のある人の保健・医療の推進、障害のある子どもへの支援、意思疎通支援の充実

(2) 障害のある人が活躍できる機会の充実

就労に向けた支援・雇用促進、特別支援教育の充実、文化芸術活動やスポーツの推進



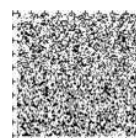
あいちアール・ブリュット※
ロゴマーク

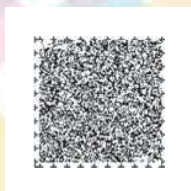
ビジョンの推進

- 「重要評価指標」・「進捗管理指標」を設定し、福祉・保健・医療施策全体の進捗状況を確認します。
- 必要に応じて計画期間中に、計画内容や指標、目標値の見直しなど、適切な進捗管理を行います。

※ あいちオレンジタウン構想：「団塊の世代」が後期高齢者となる2025年を見据え、地域で暮らし、学び、働く人々が「認知症に理解の深いまちづくり」に「じぶんごと」として取り組む社会の実現を基本理念として、2017年9月に策定。

※ あいちアール・ブリュット：障害のある人の芸術文化活動を通じて、障害のある人の社会参加と障害への理解が深まり、障害の有無をこえた交流が広がることを目指す活動





あいち福祉保健医療ビジョン2026（概要版）
2021年3月発行
愛知県福祉局福祉部福祉総務課
〒460-8501 名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電 話 052-954-6257
<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/fukushi-somu/>